

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301016		
法人名	有限会社 すえ広企画		
事業所名	グループホーム じーちゃん・ばーちゃんのお家 A棟		
所在地	岡山県津山市大谷295-1		
自己評価作成日	令和 6 年 10 月 25 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者側に寄り添い考える事をモットーとし、ホームでの生活が本人にとって居心地が良く、生き活きと生活出来るように全職員が同じ考えでケアする事を目指している。施設を感じさせない建物や、芝生の庭にベンチとテーブルを置き、天候の良い日には外での食事を楽しんでいる。公園の桜や、夜には津山納涼花火が良く見える。鉄道博物まなび館が近く15時には機関車の汽笛が聞こえ目で四季を感じ、耳から音を楽しむことが出来る。隣接の畑では季節の野菜を収穫出来るように育てている。野菜は食材としてまた近隣の方や、保育園にまた食材を有効に使っていただけたところに寄付をしたりしている。グループホームが閉ざされた施設でなくなる様に全国でも数少ない共用型デイサービスを開設し、通いの方との交流の場を作った。外部からの情報に囲まれた生活を送ることができる施設を考えた。職員は、資格取得を目指して積極的に会社が支援をしている。職員の定着率も高く、新人職員に対しても根拠と経験値に基づいた指導をしている。職員の個性と立案を大切に行事やレクリエーションを計画し、楽しみを取り入れている。また、職員全員がICT活用による、アイパットで業務効率化を実施した。慣れないことも互いに教え合い努力を惜しまない研修を重ねている。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=3370301016-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 12 月 18 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設名は孫や家族が遊びに来る時に呼びやすく、1度聞いたら忘れられないようにとの思いを込めて付けられた。開設当初は「施設名を教えてください」と言う問い合わせに、「じーちゃん・ばーちゃんが住んでいるお家でしょ」と言われることもあったが、20年以上が経ち、「じーちゃん・ばーちゃんのお家」という名が地域に浸透し、今では笑い話となっている。Aユニットの管理者は「心」を大切にしていると語ってくれ、困った際にはお互いが助け合って成長していき、アットホームな施設で気付けば20年の歳月を過ごしていた。Bユニットの管理者は、新たなサービスである「地域との共生」に取り組んだ。学生時代の恩師に偶然会った際に、「実習先が見つからなくて困っている」と相談を受けた。恩返しの気持ちを込めて、自らが指導者の資格を取得して、今では実習の受け入れ先となっている。理念にもある「地域との交流を持ち、あきらめを希望に変えられるように支援します」エピソードとして、①他の利用者とのコミュニケーションが難しかった方へは、趣味の1つであるファッションショーを施設内で開催したら、交流が深まってやりがいに繋がった。②家族と疎遠だった方が病気になる、それをきっかけに連携を取るようしたら、最終的にはイベントに参加して頂けるくらい親密な関係へと発展していった。③地域との交流も大切にしている、保育園に施設の畑で採れたスイカを持って行ったり、施設の畑で栽培したサツマイモを園児が一生懸命掘り起こしたりしている。演奏会の場所として施設の庭を提供して、美しい音色を奏でたこともあった。地域に愛され、地域と共に育ってきた施設であり、今後もまだまだ成長していく姿が垣間見えた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りに当ホームの理念である「地域との交流を持ち、諦めを希望に変えられる様支援致します」を唱え、入居者の方々が自信を持って生活が送れるように細かな申し送りをしている。	理念は玄関や事務所、リビングの目につくところに掲示している。「地域との交流を持ち、あきらめを希望に変えられるように支援します」の内容で、申し送り時に唱和している。車椅子生活で1年持つかどうか微妙といわれた方が入居されたが、今では10年が経過し、独歩で生活をされている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内在住の職員がいることで交流は深い。町内の溝掃除、月一度であるが近隣のゴミ拾い等を職員が行っている。地域の見守り隊のボランティア活動、学校、保育園と交流をしている。	職員が町内に住んでいるので地域の情報を得やすい。近隣の農家や農園からも頻繁に差し入れがある。畑で採れた大量のスイカを近隣の保育園へ持って行き、保育園児が施設の畑へ来て、芋掘りもできた。1年掛けて高校生(医療福祉コース)の実習受け入れも行っている。	今でも十分にできていますが、地域との交流をさらに深めてみてはいかがでしょうか。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所で出来る地域貢献を考え知識や育成に力を入れている。認知症や介護保険、グループホームについて地域の方、民生委員、愛育委員からの相談相手となり、津山市、包括、社協へ相談が出来るように援助や支援をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者やホーム職員の活動報告、ご家族に対し津山市からお知らせ、運営状況等を報告しご家族からの質問を受けている。ご利用者の状況について症状等を知っていただけるように簡単な勉強会を行っている。	対面で実施している。津山市役所の方、町内会の方、民生委員、愛育委員、施設長、各ユニット管理者、家族、利用者が参加している。直近の会議では、利用者状況、活動内容、訪問美容や救急救命講習の案内について確認を行った。マイナンバーカードの申請や病院受診についての質問を頂いた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括、社協、市との連携を持ち積極的にケアサービスの取り組みを伝え協力関係を築くよう取り組んでいる。困難な課題が発生されと思われた場合は、早めに課題解決に向け取り組んでいる。	窓口は施設長が中心。施設長が、介護保険課と認知症サポーターの役員も兼ねているので、連携が取れている。書類を直接持参して、足を運んで顔を合わせる関係が形成されている。直近では、勉強会の話やマイナンバーの申請についての問い合わせがあった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者およびホーム全職員が会議で話し合い、禁止事項等を事務所に貼っている。身体拘束等の適正化に関する研修会をおおむね2ヶ月に1回行い研修会の内容をレポートにまとめている。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1度開催している。検討会では、「やむを得ない拘束の再確認」や「虐待と身体拘束の法的な取り扱いの違いについて」学びを深めた。身体拘束マニュアルも整備していて、各ユニットのミーティング時に研修を行った。命令口調にならないように語尾に「～か？」をつけるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者、管理者は利用者を守るうえで入居時の家族関係に気を付け、包括社協、と連絡を取り、情報収集に努めている。事業所内では防止策として、研修や会議を行い常に努力をしている。特に職員が少なくなる夜間帯は、1時間に1回ユニット間で報告をし、記録に残している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業および、成年後見制度を学んで支援している。また、制度を必要としている利用者と家族に対して、多数の家族の支援を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を事前に配布し、契約の当日に、質疑応答の時間を設定している。改定時には追加で口頭と文章で説明し、同意書にサインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は家族の出席率を上げられる様に行事を組み入れている。町内会長、民生委員、愛育委員、津山市に声を掛けさせていただき開催をしている。職員はご家族に、電話での連絡や面会時に意見、要望等を頂けるように心がけご家族の意向を聴くことで運営に反映している。	面会は玄関先や庭のベンチで対面で実施している。遠方や海外の方とは、リモートで連絡を取っている。家族とのコミュニケーションを大切にしている。不安な気持ちにさせないように配慮している。応援している野球チームの帽子・ユニフォーム、クリスマスには、本人そっくりの似顔絵をプレゼントしたら喜んで頂けた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議や効率会議、ミーティングで職員の意見や提案を吸い上げて反映させている。また、会議録を回覧して全ホーム職員が議題を周知出来るようにしている。	毎月、各ユニットミーティングを開催し、職員間で意思疎通を図っている。職員のコミュニケーションを大切にしているので、日頃の業務からケアに対する意見が多く飛び交っている。困ったことがあれば、施設長や両ユニットの管理者は親身になって話をきいてくれるので、職員の心のケアにも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成のときは指定休を優先できるようにしている。幼児、学童のいる職員は特に、配慮し、産休、育休、介護休暇が取れる体制を作り就労ができるようにしている。職員の努力や実績、勤務状態を管理者が把握し、向上心を持って働けるよう環境や条件の整備に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修が感染症の為思うようにできず、PCのリモートを通して研修を主にしてきた。全員がPCかiPadを使える様になり、また自宅で携帯から参加して資格取得に向けた研修をしている職員もいる。自己研鑽に力を入れ研修には参加出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中での研修、交流等の集まりは各自が感染症に対して気を配りネットワーク作りや他施設の情報を集め質の向上になるように促し参加を勧めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が個別に声掛けをし、本人が困っている事、不安な事、要望など心身状態の変化を申し送りで伝達している。安心感をもてるまでは、相談しやすい職員を主に関係づくりが出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設長および管理者は、入居に至るまでとその後の生活の中での意向を電話や面会時に伝えてもらっている。家族が困っている事、不安な事、要望などを傾聴しながら、可能な限り相談に乗れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め、他のサービスが必要となった時には、随時サービスの利用変更が出来るよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支え合い生活していると実感して頂けるように、食事の準備などの役割を提供し、家事仕事を中心に慕われ喜びに変われるようにしている。介護される一方的な立場に置かない関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外泊/外出の申し出や電話の要望、面会など感染症のためにオンライン面会を中心に切り替え実施をしていた。コロナが5類になったこともあり、窓越しに顔が見える面会、庭での面会、宿泊をする入居者にも、徐々に対応している。家族・本人の絆を大切に考えている。。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症の流行で自由に馴染みの人の面会が出来なかった。また施設外に出ることも少なかった。年賀状や手紙のやり取り、電話などで関係が保てるように支援をしてきた。	面会は玄関先や庭のベンチで対面で実施している。遠方や海外の方とは、リモートで連絡を取っている。職員が休み明けに出勤したら「顔見たの久しぶり～♪」と言われ、実習生が馴染みの関係となり「また、来たね～♪」と言葉を掛けられる。施設の庭が馴染みの場所となり、ベンチでお茶を飲んでいる。12時と15時には、まなびの鉄道館の汽笛に耳を傾けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良い関係を維持出来るように見守り、問題が生じたときは、ミーティングや申し送りなどで話し合い個人を大切にした支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した後も、家族と電話でのやり取り、手紙などで関係を維持出来るよう努めている。入院から他施設に転居になったときは家族から連絡をいただいたり、電話のできる関係を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴の時や、眠前の薬を待つ時間等に話す機会があり、想いや今後の生活像を聞いている。ご本人さんが自宅に帰りたい訴えではなく亡くなったご主人を思い出してここに呼んで生活をしたいと真剣に相談を受けたこともあり嬉しいことだが現実的なことでない相談で困った場面もあった。	入居時にフェイスシートや家族に思いを聞いている。日頃のコミュニケーションやジャスチャーを交えて、思いや意向を汲み取っている。レクリエーション中に、奥様を愛する思いの強さを知ることができた。入浴を嫌がる方へは、対応職員を変えたり、言葉掛けを繰り返したら入浴を好きになったりした。	今でも十分にできていますが、再度利用者への思いや意向の把握に努めてみてはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり家族から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等を記入する用紙へに書き入れてもらい、支援事業者からの情報とサービス利用の経過などで情報を把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	団体での生活の日課と個々の生活での過ごし方の日課表を基に心身状態等の現状を観察し、職員間で情報共有を常に行っている。午前、午後の申し送りでは、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・ホーム職員と話し合い、毎月の職員会議の中で個人に即した方法や本人の気持ちを踏まえて意見やアイデアを提案して介護計画を作成するよう努めている。認知症チームケア推進加算の話合いの中で全員のケアのあり方を実践できるようにしている。	介護計画は、入居時に暫定プランを作成し、1ヶ月後に本プランへ切り替え、更新時に見直している。何かあればその都度ミーティングを行っている。モニタリングは3ヶ月毎に見直している。アセスメントシートを活用して、できること、できないことを明確にし、ケアポイントを確認した上で、プランに反映させられるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌を紙媒体からiPadに変更をした。従来と変わらない内容で、実践や介護計画の見直しに活かしている。また、個々の部屋担当者が中心となり、アセスメントをしたうえで、計画を立てている。看護師の記録にも反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況およびその時々にも生じるニーズに対応できるよう、余裕のある人員と、サービスの多機能化を考えた工夫をしている。共用型のDSを活用することで生活に張りのあるGHサービスを目指している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為に出来なかったことがようやく折を見ながら出来るようにした。町内の行事参加や吹奏楽団の来訪演奏が出来た。また家で配達された見慣れた新聞を引き続き施設に配達してもらったり、豊かな暮らしを楽しむ事に重点を置いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医で適切な医療を受けられるように家族対応の受診時には1週間の体調を記録した受診カードを持参出来る支援をしている。また、受診困難な入居者は、かかりつけ医の往診ができるような対応をしている。	かかりつけ医は、ほとんどの方が協力医に転医していて、元のかかりつけ医を受診している方もいる。月1～2回往診があり、24時間対応で何かあればすぐに駆け付けて頂けるので心強い。ドクターとの関係性も良く、何でも話せる関係となっている。週2日、看護師の方の勤務もある。他科受診は、看護師や家族が対応し、訪問歯科は必要に応じて往診がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの中に看護師が勤務をしている。介護職の立場を考え、医療に関して困りごとがないように相談が出来る良い関係が保たれている。利用者が適切な受診や往診が受けられるように共同で支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との情報交換に努め、病院の入退院時には情報交換シートを使用している。また、退院には、実際にホーム職員、看護師、作業療法士、が病院に行き、生活がスムーズに移行出来るよう関係者に聞き取りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、医師・家族と十分な話し合いができるように努めている。ホームでの看取りか、支援出来ることはなにかを適宜に話し合い、本人が望む事を大切に支援している。	看取りは可能で、入居時に「看取り指針の同意書」にて説明し、サインを頂いている。遠方の家族も会いに来られ、無事に最期を迎えられた。その際に、施設長からこれまでの施設の様子を細かく伝えたら、「親身になって頂き、ありがとうございました」との手紙を頂いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム職員は、応急手当および初期対応の仕方を消防署から定期的に訓練を受けている。また、マニュアルを作成し、実践出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害の避難訓練は、防災管理者及び担当者が年間計画を立案して独自に訓練を実施している。また、近隣の協力で1ヶ所非常用門扉を増設できた。地域での防災訓練にも参加している。BCPのマニュアルに伴い非常食の備蓄をしている。	年4回、火災、地震、水害を昼夜想定で実施している。防災士の資格を持っている職員や近隣に元消防庁の方もいる。事務所に連絡網と避難経路を掲示している。いつでも車で移動できるように、ガソリンは半分を切らないようにしている。備蓄は、水、レトルト食品、缶詰を休憩室に3日分保管している。賞味期限間近の物は、ローリングストックするようにしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム職員間で利用者の人格を尊重するため、気になる点や言葉掛けの方法、誇りやプライバシーを損ねない支援を意識し、研修会や常に話し合いを重ね努力をしている。	呼称は苗字に「さん」付けで呼んでいる。内部研修でプライバシー、外部研修では人権について学びを深めた。命令口調にならないように語尾に「～か？」をつけるようにしている。排泄失敗時には、「これでいいんですよ～」と優しく言葉掛けをしたり、さりげなくトイレへ誘導したりしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	初詣に行きたい、紅葉刈りに行きたいと何気ない発言を実現できるように取り組んでいる。毎日午前中の飲物はミニ喫茶店を開き選択できる機会を設けることで利用者の自己決定を大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、起床した時に朝食を摂れるように配慮している。最低限の生活リズムが維持出来るように努め、個々のペースに合わせながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院の訪問があり、その人らしいおしゃれや身だしなみを楽しんでいる。洗顔後には化粧水を使用する方や少なくなった場合は購入の支援もしている。行事のときは普段しない方でもお化粧を楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを尋ね、献立を作成し、一緒に食事の準備や後片付けをするようにしている。家庭の味を大切に昔のしきたりや行事食を工夫し、誕生日会は主役になる方の希望を尋ね、季節感があり見た目にも楽しめる彩りある手作りの食事を提供している。	食事は3食手作りで、同じメニューにならないように配慮している。冷蔵庫と相談してメニューを考えているので職員の腕が鳴る。地産地消で毎日「美味しい」の声が挙がっている。誕生日には、利用者が食べたい物を嗜好調査している。クリスマスにはチキン、お正月にはお節料理を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録して一日の状態を把握している。水分摂取では、9時には緑茶、10時には喫茶店を開き飲み物を、15時にはお茶とお菓子で、全員が1200cc以上になるように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3度の食事後に口腔ケアをしている。手順が分からない利用者には、ホーム職員が付き添って援助している。また、夜間は義歯洗浄剤で除菌をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、職員は全員の排泄した時間を把握でき、トイレの声掛けと誘導をすることで失敗を減らせるようにしている。職員は細やかな情報のやり取りをしながら自立に向けた支援をしている。	トイレは各ユニット4ヶ所ある。排泄チェック表は、紙媒体とタブレットで管理している。布パンツで過ごされている方が5名いて、夜間のみポータブルトイレを使用している方は1名いる。トイレの扉には、鈴をつけて音でわかるように工夫している。オムツから紙パンツへ、パットのサイズが改善された事例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、－2日目より、朝・起床時の冷牛乳や冷水摂取を実施している。環境整備に廊下の手摺拭きながら歩くと1往復50mになり運動を兼ねて歩くことが出来る		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スムーズに入浴出来るように声掛けを工夫し、お誘いをしている。個々にあった入浴の声掛けと支援に心がけている。午前午後を問わず声掛けや、担当職員を替えたりして入浴を支援している。	入浴は週2～3回。お湯は午前と午後で入れ替えている。浴槽に浸かれる方がほとんど。安全面に配慮して、シャワー浴や足浴で対応する場合もある。浴室内には手すりも設置している。入浴を拒否される方へは、利用者が「一緒にいこうよ」と言葉掛けをしたり、時間帯を変えて決して無理強いはいしない方針を取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や状況に応じ、ソファや居室で過ごしていただいている。夜間、眠れない利用者には、職員と会話や、暖かい飲み物を一緒に飲みながら、気持ちよく入眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	15年前から相談のできる薬局があり薬の変更や錠剤が困難な利用者に対し、ホームの意向、日数調整、用法、等を薬剤師から、医師に相談し、無理なく服薬できるように連携を取っている。薬に対する研修と安心した薬の支援が行えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた役割を提供することで、日々の生活に変化が出来るように昔の風潮や習わしを取り入れ行事の企画を考え支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症流行のため外部の方との接触を避けていたがホーム職員と出かけるお花見、紫陽花見学、秋には奥津に紅葉を見に出かけた。	まなび鉄道館、地域のお祭り、奥津への紅葉狩り、グリーンヒルズでの桜、長法寺でアジサイを鑑賞した。気候の良い日には、庭に出て風景を眺め、お茶を飲んで過ごしている。洗濯物干しやベンチに腰掛けて昔話に花を咲かせる場合もある。家族同伴での外出や外泊は可能としている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出でお金を使う機会がなく買い物を楽しむことまでできなかった。紅葉見学で奥津での買い物は買い物を促して半数の方は買い物が出来て居るが後の方は、興味がわかなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら事務所から電話を掛けられるように支援をしている。また、手紙を書くのに必要なものは購入が出来るように支援をしている。ポストに投函は職員が支援している。オンライン面会、LINE面会をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室を間違える方に印や名前を貼りトイレの場所を表示している。共用の空間は広く、天窓からの陽の光で天気の様子がわかりテーブル席からは中庭が見え雨や雪を眺めることが出来る。毎月壁に月々の制作物作り四季折々に飾っている。居心地良く過ごして頂けるよう入居者さんと一緒に工夫をしている。	洗面台の大きな鏡の横には理念が貼ってあり、キッチンからは鏡越しに利用者の様子が見えるように工夫されていて、いつでも見守ることができている。壁には季節毎に手作りの作品が飾られている。ペットボトルの蓋で作ったホームのマーク【じーちゃんばーちゃんの顔】や新聞紙、広告を再利用して作った鯉の滝登りの絵が堂々と飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りの空間や気の合った利用者同士で過ごせるように、ソファ、リビング、居室での工夫をしている。リビングのテレビは2台で、別番組が観れるようにした。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が持参した写真には、デコレーションをして居室に飾り、いつでも見られるようにしている。また、安心できる居室作りのため化粧台、テレビ、置物、時計等を持参している。	ドアの横壁には手すりが設置されている。壁面には、施設内でのイベントや孫の結婚式の写真を貼っている。施設内で撮った写真が貯まっていくと、職員がアルバムにまとめて利用者にプレゼントして大切に保管している。髭剃りで身だしなみを整えたり、乳液を使用してスキンケアをしたりしている。寝る前にお経や詩吟の練習をしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所を分かりやすくするために、名前を書き、トイレには札をつけている。浴室内の手摺りには目印をつけ握りやすく工夫し、自立した生活が送れるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301016		
法人名	有限会社 すえ広企画		
事業所名	グループホーム じーちゃん・ばーちゃんのお家 B棟		
所在地	岡山県津山市大谷295-1		
自己評価作成日	令和 6 年 10 月 25 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者側に寄り添い考える事をモットーとし、ホームでの生活が本人にとって居心地が良く、生き活きと生活出来るように全職員が同じ考えでケアする事を目指している。施設を感じさせない建物や、芝生の庭にベンチとテーブルを置き、天候の良い日には外での食事を楽しんでいる。公園の桜や、夜には津山納涼花火が良く見える。鉄道博物まなび館が近く15時には機関車の汽笛が聞こえ目で四季を感じ、耳から音を楽しむことが出来る。隣接の畑では季節の野菜を収穫出来るように育てている。野菜は食材としてまた近隣の方や、保育園にまた食材を有効に使っていただけたところに寄付をしたりしている。グループホームが閉ざされた施設でなくなる様に全国でも数少ない共用型デイサービスを開設し、通いの方との交流の場を作った。外部からの情報に囲まれた生活を送ることができる施設を考えた。職員は、資格取得を目指して積極的に会社が支援をしている。職員の定着率も高く、新人職員に対しても根拠と経験値に基づいた指導をしている。職員の個性と立案を大切に行事やレクリエーションを計画し、楽しみを取り入れている。また、職員全員がICT活用による、アイパットで業務効率化を実施した。慣れないことも互いに教え合い努力を惜しまない研修を重ねている。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=3370301016-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 12 月 18 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設名は孫や家族が遊びに来る時に呼びやすく、1度聞いたら忘れられないようにとの思いを込めて付けられた。開設当初は「施設名を教えてください」と言う問い合わせに、「じーちゃん・ばーちゃんが住んでいるお家でしょ」と言われることもあったが、20年以上が経ち、「じーちゃん・ばーちゃんのお家」という名が地域に浸透し、今では笑い話となっている。Aユニットの管理者は「心」を大切にしていると語ってくれ、困った際にはお互いが助け合って成長していき、アットホームな施設で気付けば20年の歳月を過ごしていた。Bユニットの管理者は、新たなサービスである「地域との共生」に取り組んだ。学生時代の恩師に偶然会った際に、「実習先が見つからなくて困っている」と相談を受けた。恩返しの気持ちを込めて、自らが指導者の資格を取得して、今では実習の受け入れ先となっている。理念にもある「地域との交流を持ち、あきらめを希望に変えられるように支援します」エピソードとして、①他の利用者とのコミュニケーションが難しかった方へは、趣味の1つであるファッションショーを施設内で開催したら、交流が深まってやりがいに繋がった。②家族と疎遠だった方が病気になる、それをきっかけに連携を取るようしたら、最終的にはイベントに参加して頂けるくらい親密な関係へと発展していった。③地域との交流も大切にしている、保育園に施設の畑で採れたスイカを持って行ったり、施設の畑で栽培したサツマイモを園児が一生懸命掘り起こしたりしている。演奏会の場所として施設の庭を提供して、美しい音色を奏でたこともあった。地域に愛され、地域と共に育ってきた施設であり、今後もまだまだ成長していく姿が垣間見えた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りに当ホームの理念である「地域との交流を持ち、諦めを希望に変えられる様支援致します」を唱え、入居者の方々が自信を持って生活が送れるように細かな申し送りをしている。	理念は玄関や事務所、リビングの目につくところに掲示している。「地域との交流を持ち、あきらめを希望に変えられるように支援します」の内容で、申し送り時に唱和している。車椅子生活で1年持つかどうか微妙といわれた方が入居されたが、今では10年が経過し、独歩で生活をされている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内在住の職員がいることで交流は深い。町内の溝掃除、月一度であるが近隣のゴミ拾い等を職員が行っている。地域の見守り隊のボランティア活動、学校、保育園と交流をしている。	職員が町内に住んでいるので地域の情報を得やすい。近隣の農家や農園からも頻繁に差し入れがある。畑で採れた大量のスイカを近隣の保育園へ持って行き、保育園児が施設の畑へ来て、芋掘りもできた。1年掛けて高校生(医療福祉コース)の実習受け入れも行っている。	今でも十分にできていますが、地域との交流をさらに深めてみてはいかがでしょうか。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所で出来る地域貢献を考え知識や育成に力を入れている。認知症や介護保険、グループホームについて地域の方、民生委員、愛育委員からの相談相手となり、津山市、包括、社協へ相談が出来るように援助や支援をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者やホーム職員の活動報告、ご家族に対し津山市からお知らせ、運営状況等を報告しご家族からの質問を受けている。ご利用者の状況について症状等を知っていただけるように簡単な勉強会を行っている。	対面で実施している。津山市役所の方、町内会の方、民生委員、愛育委員、施設長、各ユニット管理者、家族、利用者が参加している。直近の会議では、利用者状況、活動内容、訪問美容や救急救命講習の案内について確認を行った。マイナンバーカードの申請や病院受診についての質問を頂いた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括、社協、市との連携を持ち積極的にケアサービスの取り組みを伝え協力関係を築くよう取り組んでいる。困難な課題が発生されたと考えられた場合は、早めに課題解決に向け取り組んでいる。	窓口は施設長が中心。施設長が、介護保険課と認知症サポーターの役員も兼ねているので、連携が取れている。書類を直接持参して、足を運んで顔を合わせる関係が形成されている。直近では、勉強会の話やマイナンバーの申請についての問い合わせがあった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者およびホーム全職員が会議で話し合い、禁止事項等を事務所に貼っている。身体拘束等の適正化に関する研修会をおおむね2ヶ月に1回行い研修会の内容をレポートにまとめている。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1度開催している。検討会では、「やむを得ない拘束の再確認」や「虐待と身体拘束の法的な取り扱いの違いについて」学びを深めた。身体拘束マニュアルも整備していて、各ユニットのミーティング時に研修を行った。命令口調にならないように語尾に「～か？」をつけるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者、管理者は利用者を守るうえで入居時の家族関係に気を付け、包括社協、と連絡を取り、情報収集に努めている。事業所内では防止策として、研修や会議を行い常に努力をしている。特に職員が少なくなる夜間帯は、1時間に1回ユニット間で報告をし、記録に残している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業および、成年後見制度を学んで支援している。また、制度を必要としている利用者と家族に対して、多数の家族の支援を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を事前に配布し、契約の当日に、質疑応答の時間を設定している。改定時には追加で口頭と文章で説明し、同意書にサインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は家族の出席率を上げられる様に行事を組み入れている。町内会長、民生委員、愛育委員、津山市に声を掛けさせていただき開催をしている。職員はご家族に、電話での連絡や面会時に意見、要望等を頂けるように心がけご家族の意向を聴くことで運営に反映している。	面会は玄関先や庭のベンチで対面で実施している。遠方や海外の方とは、リモートで連絡を取っている。家族とのコミュニケーションを大切にしている。不安な気持ちにさせないように配慮している。応援している野球チームの帽子・ユニフォーム、クリスマスには、本人そっくりの似顔絵をプレゼントしたら喜んで頂けた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議や効率会議、ミーティングで職員の意見や提案を吸い上げて反映させている。また、会議録を回覧して全ホーム職員が議題を周知出来るようにしている。	毎月、各ユニットミーティングを開催し、職員間で意思疎通を図っている。職員のコミュニケーションを大切にしているので、日頃の業務からケアに対する意見が多く飛び交っている。困ったことがあれば、施設長や両ユニットの管理者は親身になって話をきいてくれるので、職員の心のケアにも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成のときは指定休を優先できるようにしている。幼児、学童のいる職員は特に、配慮し、産休、育休、介護休暇が取れる体制を作り就労ができるようにしている。職員の努力や実績、勤務状態を管理者が把握し、向上心を持って働けるよう環境や条件の整備に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修が感染症の為思うようにできず、PCのリモートを通して研修を主にしてきた。全員がPCかiPadを使える様になり、また自宅で携帯から参加して資格取得に向けた研修をしている職員もいる。自己研鑽に力を入れ研修には参加出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中での研修、交流等の集まりは各自が感染症に対して気を配りネットワーク作りや他施設の情報を集め質の向上になるように促し参加を勧めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が個別に声掛けをし、本人が困っている事、不安な事、要望など心身状態の変化を申し送りで伝達している。安心感をもてるまでは、相談しやすい職員を主に関係づくりが出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設長および管理者は、入居に至るまでとその後の生活の中での意向を電話や面会時に伝えてもらっている。家族が困っている事、不安な事、要望などを傾聴しながら、可能な限り相談に乗れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め、他のサービスが必要となった時には、随時サービスの利用変更が出来るよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支え合い生活していると実感して頂けるように、食事の準備などの役割を提供し、家事仕事を中心に慕われ喜びに変われるようにしている。介護される一方的な立場に置かない関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外泊/外出の申し出や電話の要望、面会など感染症のためにオンライン面会を中心に切り替え実施をしていた。コロナが5類になったこともあり、窓越しに顔が見える面会、庭での面会、宿泊をする入居者にも、徐々に対応している。家族・本人の絆を大切に考えている。。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症の流行で自由に馴染みの人の面会が出来なかった。また施設外に出ることも少なかった。年賀状や手紙のやり取り、電話などで関係が保てるように支援をしてきた。	面会は玄関先や庭のベンチで対面で実施している。遠方や海外の方とは、リモートで連絡を取っている。職員が休み明けに出勤したら「顔見たの久しぶり～♪」と言われ、実習生が馴染みの関係となり「また、来たね～♪」と言葉を掛けられる。施設の庭が馴染みの場所となり、ベンチでお茶を飲んでいる。12時と15時には、まなびの鉄道館の汽笛に耳を傾けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良い関係を維持出来るように見守り、問題が生じたときは、ミーティングや申し送りなどで話し合い個人を大切にした支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した後も、家族と電話でのやり取り、手紙などで関係を維持出来るよう努めている。入院から他施設に転居になったときは家族から連絡をいただいたり、電話のできる関係を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴の時や、眠前の薬を待つ時間等に話す機会があり、想いや今後の生活像を聞いている。ご本人さんが自宅に帰りたい訴えではなく亡くなったご主人を思い出してここに呼んで生活したいと真剣に相談を受けたこともあり嬉しいことだが現実的なことでない相談で困った場面もあった。	入居時にフェイスシートや家族に思いを聞いている。日頃のコミュニケーションやジャスチャーを交えて、思いや意向を汲み取っている。レクリエーション中に、奥様を愛する思いの強さを知ることができた。入浴を嫌がる方へは、対応職員を変えたり、言葉掛けを繰り返したら入浴を好きになったりした。	今でも十分にできていますが、再度利用者への思いや意向の把握に努めてみてはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり家族から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等を記入する用紙へに書き入れてもらい、支援事業者からの情報とサービス利用の経過などで情報を把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	団体での生活の日課と個々の生活での過ごし方の日課表を基に心身状態等の現状を観察し、職員間で情報共有を常に行っている。午前、午後の申し送りでは、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・ホーム職員と話し合い、毎月の職員会議の中で個人に即した方法や本人の気持ちを踏まえて意見やアイデアを提案して介護計画を作成するよう努めている。認知症チームケア推進加算の話合いの中で全員のケアのあり方を実践できるようにしている。	介護計画は、入居時に暫定プランを作成し、1ヶ月後に本プランへ切り替え、更新時に見直している。何かあればその都度ミーティングを行っている。モニタリングは3ヶ月毎に見直している。アセスメントシートを活用して、できること、できないことを明確にし、ケアポイントを確認した上で、プランに反映させられるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌を紙媒体からiPadに変更をした。従来と変わらない内容で、実践や介護計画の見直しに活かしている。また、個々の部屋担当者が中心となり、アセスメントをしたうえで、計画を立てている。看護師の記録にも反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況およびその時々にも生じるニーズに対応できるよう、余裕のある人員と、サービスの多機能化を考えた工夫をしている。共用型のDSを活用することで生活に張りのあるGHサービスを目指している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為に出来なかったことがようやく折を見ながら出来るようにした。町内の行事参加や吹奏楽団の来訪演奏が出来た。また家で配達された見慣れた新聞を引き続き施設に配達してもらったり、豊かな暮らしを楽しむ事に重点を置いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医で適切な医療を受けられるように家族対応の受診時には1週間の体調を記録した受診カードを持参出来る支援をしている。また、受診困難な入居者は、かかりつけ医の往診ができるような対応をしている。	かかりつけ医は、ほとんどの方が協力医に転医していて、元のかかりつけ医を受診している方もいる。月1～2回往診があり、24時間対応で何かあればすぐに駆け付けて頂けるので心強い。ドクターとの関係性も良く、何でも話せる関係となっている。週2日、看護師の方の勤務もある。他科受診は、看護師や家族が対応し、訪問歯科は必要に応じて往診がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの中に看護師が勤務をしている。介護職の立場を考え、医療に関して困りごとがないように相談が出来る良い関係が保たれている。利用者が適切な受診や往診が受けられるように共同で支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との情報交換に努め、病院の入退院時には情報交換シートを使用している。また、退院には、実際にホーム職員、看護師、作業療法士、が病院に行き、生活がスムーズに移行出来るよう関係者に聞き取りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、医師・家族と十分な話し合いができるように努めている。ホームでの看取りか、支援出来ることはなにかを適宜に話し合い、本人が望む事を大切に支援している。	看取りは可能で、入居時に「看取り指針の同意書」にて説明し、サインを頂いている。遠方の家族も会いに来られ、無事に最期を迎えられた。その際に、施設長からこれまでの施設の様子を細かく伝えたら、「親身になって頂き、ありがとうございました」との手紙を頂いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム職員は、応急手当および初期対応の仕方を消防署から定期的に訓練を受けている。また、マニュアルを作成し、実践出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害の避難訓練は、防災管理者及び担当者が年間計画を立案して独自に訓練を実施している。また、近隣の協力で1ヶ所非常用門扉を増設できた。地域での防災訓練にも参加している。BCPのマニュアルに伴い非常食の備蓄をしている。	年4回、火災、地震、水害を昼夜想定で実施している。防災士の資格を持っている職員や近隣に元消防庁の方もいる。事務所に連絡網と避難経路を掲示している。いつでも車で移動できるように、ガソリンは半分を切らないようにしている。備蓄は、水、レトルト食品、缶詰を休憩室に3日分保管している。賞味期限間近の物は、ローリングストックするようにしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム職員間で利用者の人格を尊重するため、気になる点や言葉掛けの方法、誇りやプライバシーを損ねない支援を意識し、研修会や常に話し合いを重ね努力をしている。	呼称は苗字に「さん」付けで呼んでいる。内部研修でプライバシー、外部研修では人権について学びを深めた。命令口調にならないように語尾に「～か？」をつけるようにしている。排泄失敗時には、「これでいいんですよ～」と優しく言葉掛けをしたり、さりげなくトイレへ誘導したりしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	初詣に行きたい、紅葉刈りに行きたいと何気ない発言を実現できるように取り組んでいる。毎日午前中の飲物はミニ喫茶店を開き選択できる機会を設けることで利用者の自己決定を大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、起床した時に朝食を摂れるように配慮している。最低限の生活リズムが維持出来るように努め、個々のペースに合わせながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院の訪問があり、その人らしいおしゃれや身だしなみを楽しんでいる。洗顔後には化粧水を使用する方や少なくなった場合は購入の支援もしている。行事のときは普段しない方でもお化粧を楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを尋ね、献立を作成し、一緒に食事の準備や後片付けをするようにしている。家庭の味を大切に昔のしきたりや行事食を工夫し、誕生日会は主役になる方の希望を尋ね、季節感があり見た目にも楽しめる彩りある手作りの食事を提供している。	食事は3食手作りで、同じメニューにならないように配慮している。冷蔵庫と相談してメニューを考えているので職員の腕が鳴る。地産地消で毎日「美味しい」の声が挙がっている。誕生日には、利用者が食べたい物を嗜好調査している。クリスマスにはチキン、お正月にはお節料理を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録して一日の状態を把握している。水分摂取では、9時には緑茶、10時には喫茶店を開き飲み物を、15時にはお茶とお菓子で、全員が1200cc以上になるように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3度の食事後に口腔ケアをしている。手順が分からない利用者には、ホーム職員が付き添って援助している。また、夜間は義歯洗浄剤で除菌をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、職員は全員の排泄した時間を把握でき、トイレの声掛けと誘導をすることで失敗を減らせるようにしている。職員は細やかな情報のやり取りをしながら自立に向けた支援をしている。	トイレは各ユニット4ヶ所ある。排泄チェック表は、紙媒体とタブレットで管理している。布パンツで過ごされている方が5名いて、夜間のみポータブルトイレを使用している方は1名いる。トイレの扉には、鈴をつけて音でわかるように工夫している。オムツから紙パンツへ、パットのサイズが改善された事例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、－2日目より、朝・起床時の冷牛乳や冷水摂取を実施している。環境整備に廊下の手摺拭きながら歩くと1往復50mになり運動を兼ねて歩くことが出来る		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スムーズに入浴出来るように声掛けを工夫し、お誘いをしている。個々にあった入浴の声掛けと支援に心がけている。午前午後を問わず声掛けや、担当職員を替えたりして入浴を支援している。	入浴は週2～3回。お湯は午前と午後で入れ替えている。浴槽に浸かれる方がほとんど。安全面に配慮して、シャワー浴や足浴で対応する場合もある。浴室内には手すりも設置している。入浴を拒否される方へは、利用者が「一緒にいこうよ」と言葉掛けをしたり、時間帯を変えて決して無理強いはいしない方針を取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や状況に応じ、ソファや居室で過ごしていただいている。夜間、眠れない利用者には、職員と会話や、暖かい飲み物を一緒に飲みながら、気持ちよく入眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	15年前から相談のできる薬局があり薬の変更や錠剤が困難な利用者に対し、ホームの意向、日数調整、用法、等を薬剤師から、医師に相談し、無理なく服薬できるように連携を取っている。薬に対する研修と安心した薬の支援が行えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた役割を提供することで、日々の生活に変化が出来るように昔の風潮や習わしを取り入れ行事の企画を考え支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症流行のため外部の方との接触を避けていたがホーム職員と出かけるお花見、紫陽花見学、秋には奥津に紅葉を見に出かけた。	まなび鉄道館、地域のお祭り、奥津への紅葉狩り、グリーンヒルズでの桜、長法寺でアジサイを鑑賞した。気候の良い日には、庭に出て風景を眺め、お茶を飲んで過ごしている。洗濯物干しやベンチに腰掛けて昔話に花を咲かせる場合もある。家族同伴での外出や外泊は可能としている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出でお金を使う機会がなく買い物を楽しむことまでできなかった。紅葉見学で奥津での買い物は買い物を促して半数の方は買い物が出来て居るが後の方は、興味がなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら事務所から電話を掛けられるように支援をしている。また、手紙を書くのに必要なものは購入が出来るように支援をしている。ポストに投函は職員が支援している。オンライン面会、LINE面会をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室を間違える方に印や名前を貼りトイレの場所を表示している。共用の空間は広く、天窓からの陽の光で天気の様子がわかりテーブル席からは中庭が見え雨や雪を眺めることが出来る。毎月壁に月々の制作物作り四季折々に飾っている。居心地良く過ごして頂けるよう入居者さんと一緒に工夫をしている。	洗面台の大きな鏡の横には理念が貼ってあり、キッチンからは鏡越しに利用者の様子が見えるように工夫されていて、いつでも見守ることができている。壁には季節毎に手作りの作品が飾られている。ペットボトルの蓋で作ったホームのマーク【じーちゃんばーちゃんの顔】や新聞紙、広告を再利用して作った鯉の滝登りの絵が堂々と飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りの空間や気の合った利用者同士で過ごせるように、ソファ、リビング、居室での工夫をしている。リビングのテレビは2台で、別番組が観れるようにした。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が持参した写真には、デコレーションをして居室に飾り、いつでも見られるようにしている。また、安心できる居室作りのため化粧台、テレビ、置物、時計等を持参している。	ドアの横壁には手すりが設置されている。壁面には、施設内でのイベントや孫の結婚式の写真を貼っている。施設内で撮った写真が貯まっていくと、職員がアルバムにまとめて利用者にプレゼントして大切に保管している。髭剃りで身だしなみを整えたり、乳液を使用してスキンケアをしたりしている。寝る前にお経や詩吟の練習をしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所を分かりやすくするために、名前を書き、トイレには札をつけている。浴室内の手摺りには目印をつけ握りやすく工夫し、自立した生活が送れるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				